



ゆづりは

堺市立図書館だより

第6巻 第1号 (通巻19号)

発行日 平成23年6月10日

編集・発行 堺市立中央図書館
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072(244)3811

Fax 072(244)3321

URL <http://www.lib-sakai.jp/>

応援します 学校での読書活動

図書館では子ども読書活動を推進するため、さまざまな事業を行っています。その中でも、今回は学校支援についてご紹介します。

学校支援とは？

地域の学校と協力することは、図書館の役割の一つです。学校からの依頼により、本についての相談をお受けする他、学校に訪問しての「おはなし会」や、小学3年生の図書館見学・中学2年生の職場体験の受け入れなどを行っています。なかでも現在、ご利用が増えているのは、団体貸出制度を利用した図書館資料貸出です。

学校への団体貸出について

「団体貸出」は、PTAの読み聞かせグループや読書会などの団体に貸出カードを発行し、まとまった数の資料を長期間借りていただくことができる制度です。学校への団体貸出は2種類あります。朝の読書活動などに活用される読書用の本の貸出と、授業などで使っていただく調べ学習用の貸出です。複数の学校から同時に同じテーマの申し込みが重なることもあります。蔵書を調整して、できるだけご希望にそえるように努めています。



修学旅行先の事前学習のため、沖縄に関する本を借りられました。(月洲中学校)

学校と協力しています

学校支援は、学校と図書館が連携して、より多くの子どもたちに本を提供するための事業です。今年度から学校図書館についての授業も始まります。これからも、子どもたちのために、より充実した読書環境を、整備していきたいと思っております。

文部科学大臣表彰を受賞

堺市立中央図書館は、平成23年度

「子ども読書活動優秀実践図書館」として、文部科学大臣表彰を受賞しました。今後とも、学校や家庭、地域の皆様と連携しながら、子どもたちが心豊かに過ごせるよう、子どもと本に関わる事業に取り組んでまいります。

目次

応援します 学校での読書活動	…1
堺市図書館まつり開催	…2
この本で解決！ ～古典文学を調べる～	…2
さかい☆HUG はぐメール 配信中!!	…2
シリーズ堺の〇〇 堺の津波 津波碑 「擁護璽」	…3
堺かるた いろはの「た」	…3
資料(点検)整理期間による 臨時休館のお知らせ	…3
司書のイチ押し! ～与謝無村 春風馬堤曲～ 『無村俳句集』ほか所収	…4
堺市立図書館電話番号一覧	…4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

「年ごとに
ゆづりゆづりて 譲り葉の
ゆづりしあとに また新しく」

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」通巻第1号にご紹介しています。)



新緑の中、

堺市図書館まつり開催

5月8日(日)中央図書館で堺市図書館まつりが開催されました。日頃は各区の図書館で活動しておられるボランティアの方々が集まって結成された実行委員会による、手作りのおまつりです。



くす玉割りのあと、図書館まつりの歌をうたって始まりました。



うまく工作できるかな？

おはなし・絵本の広場・人形劇・あそびの広場など楽しい一日でした。



おはなしはじまるよ



としょかんたんけんたいだ！

この本で解決！ ～古典文学を調べる～

古典文学に関する問い合わせに、どのようにお答えしているか、ご紹介します。

中国の明時代に張寧という人が作った「西湖十景」という詩について書いている資料はあるか。

『中国学芸大事典』(大修館書店)に「張寧」の項目はありませんでした。「西湖」の項目に、「西湖十景」の十の呼び方についての解説がありました。『書道全集』22巻(平凡社)に、江戸時代の書道家・細井廣澤が書いた「西湖十景」の書が掲載されています。この本に少しだけ解説があり、『西湖遊覧志』に載った詩であるようですが、日本語版では発行されていないようです。

正岡子規の「春雨をふくめる空の薄曇 山吹の花の枝もうごかず」という短歌の「薄曇」は、「薄曇り」と表記しないのかどうか確認したい。

正岡子規関連の資料をいろいろ探してみたところ、『子規全集』7巻(改造社)、『現代日本文学全集』6巻(筑摩書房)、『日本の詩歌』3巻(中央公論社)に載っていました。それらによると、この短歌は『竹の里歌』という歌集に掲載されたもので、表記は3冊とも「薄曇」で「り」はありませんでした。

万葉集の「アサギリノヤエヤマコエテホトトギスウノハナヘカラナキテコエ」の歌の最後は「キヌ」か「ケリ」か。

『国歌大観』(角川書店)、『新日本古典文学大系』(岩波書店)、『日本古典文学全集』(小学館)を確認すると、どれも「来ぬ」になっています。大系と全集では「朝霧の 八重山超えて ほととぎす 卯の花辺(へ)から 名来て超え来(き)ぬ」、漢字で表記では「旦霧 八重山超而 霍公鳥 宇能花辺柄 鳴越来」となります。

さかい☆HUG はぐメール 配信中!!

図書館の乳幼児向けイベントや絵本の情報

右のコードのメールアドレスに、空メールを送信してください。読取ができない方は、直接入力して送信してください。



sakai-hughug@emp. ikkr. jp

シリーズ 堺の〇〇 **堺の津波**



ようごじ
津波碑「擁護壘」

東日本大震災では津波の恐ろしさを改めて感じましたが、大阪でも江戸時代に大きな地震が2度あり、大津波に襲われています。

2度の地震は1707年の宝永地震と1854年の安政地震で、このうち安政地震の津波被害を記録した津波碑が、大浜公園内に設置されています。高さ2.7mの花崗岩で表面に大きく「擁護壘」と記し、裏面には津波による堺の状況をあらわした碑文が刻まれています。そこには、「嘉永7年（安政元年）11月5日に強い揺れがあり、日暮れごろに大津波が起こって川筋へ入り込み、橋が八つ崩れ落ち、船は大きく破損し、見るも恐ろしく、言葉では言い表せないほどだった」とあります。他に、里人は神社の広庭に避難し無事だったこと、地震が強いときは船に乗って避難してはならないという当時の教訓、堺の人々が無事だったのは産土神である神明宮・三村宮・天満宮のおかげという謝意が刻まれています。

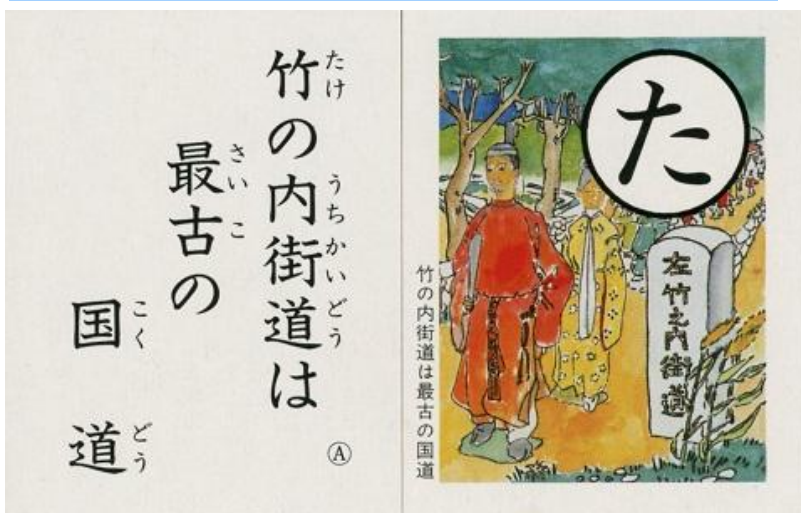
碑文は行書体で下の方が欠けてしまっているのが実際に読むのは困難ですが、『堺市史』第1巻に原文が記載されています。また、『堺市・「擁護壘」、神から賜った壘』(長尾武/著)という論文には、原文のほかに口語訳や解説も載っています。



参考文献

- 『堺市・「擁護壘」、神から賜った壘』
- (『歴史地震』第24号抜粋) 長尾武/著 歴史地震研究会
- 『堺市史』第1巻 堺市役所 60~64p
- 『大阪春秋』第78号 大阪春秋社 93~95p

堺かるた - いろはの「た」
「竹の内街道は 最古の 国道」



日本書紀に、推古天皇の二十一年（613年）難波（今の大阪市）より、そのころ都であった飛鳥（今の明日香村）まで大道をつけたと書かれています。その名残が「竹の内街道」です。榎小学校の横から、金岡小学校の前を東へ、中村町、野遠町をとおり、松原市、羽曳野市、太子町から二上山の北側の竹の内峠を越え、大和の飛鳥へと続いているので「竹の内街道」と呼ばれるようになりました。この竹の内街道は、わが国でいちばん古い国道であるといえます。

**「資料（点検）整理期間による
臨時休館のお知らせ」**

館内にある資料の点検や配置換えを行います。

- 南図書館 6月13日(月)~17日(金)
- 初芝分館 6月23日(木)、24日(金)

司書のイチ押し!

～与謝蕪村 春風馬堤曲～

『蕪村俳句集』 岩波書店ほか所収

「ドラマでも小説でも、テーマがまとまらないとき、わたしは蕪村を読むのよ」。向田邦子が澤地久枝に語った言葉です（『わが人生の案内人』）。

向田邦子の没後、澤地久枝は誘われるように、「短篇小説の世界と紙一重の距離にある」蕪村の世界に心動かされていくのですが、実は蕪村には、短篇小説そのものといえる作品があります。蕪村晩年の作、「春風馬堤曲」がそれです。

与謝蕪村（よさぶそん）は江戸中期の俳人・画家。享保元年（1716年）、摂津国東成郡毛馬村（現・大阪市都島区毛馬町）に生まれ、天明三年（1783年）京都に没しました。二十歳の頃に江戸へ下ってから、生涯一度も故郷毛馬村の土を踏むことはありませんでしたが、望郷の念は強く、その「懐旧のやるかたなき」思いは、蕪村を「春風馬堤曲」の創作へと向かわせました。「馬堤ハ毛馬堤也。則、余が故園也」（蕪村の手紙）。

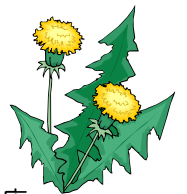
主人公は、藪入り（正月十六日、奉公人が主家から暇をもらって帰省すること）で浪花の町から故郷の毛馬へ帰る娘。蕪村は序文で、毛馬への道中で知り合った美しい娘になり替って、その故郷へ帰る心情を歌った作品である、と述べています。全三十二行、十八首。俳句と漢詩から成るこの短い作品に、蕪村は、毛馬堤を足早に歩く娘の魅力的な姿を、実に生き活きと描き出しました。春風に吹かれながら故郷へと歩を運ぶ喜び（春風や堤長うして家遠し）、道草を食って芹やタンポポを摘む童心あふれる姿（憐みとる蒲公英たんぽぽ）

莖短して乳を温くあませり）、幼い弟と3年もの間待っていてくれた母への愛（むかしむかししきりにおもふ慈母の恩）。そして浪花の町で美しく成長した自分自身の姿（春あり成長して浪花にあり）・・・。

明治期、蕪村評価の先鞭をつけた歌人・俳人の正岡子規は、「春風馬堤曲」について、「俳句以外に蕪村の文学として見るべき者もこれのみ。蕪村の熱情を現したる者もこれのみ」と記しています（『俳人蕪村』）。また、同じ詩人で小説家としても名高い佐藤春夫には、「春風馬堤曲」を下敷きにした映画シナリオ「春風馬堤図譜」があります（『定本佐藤春夫全集第18巻』）。

「春風馬堤曲」が、読者に郷愁を抱かせるのは、詩人の萩原朔太郎が記したとおり、蕪村が「娘の藪入り」に仮託して、蕪村自身の「心の藪入り」を歌っているからなのかもしれません（『郷愁の詩人と謝蕪村』）。

(S)



参考文献

- 『蕪村俳句集』 尾形仵/校注 岩波書店
 『蕪村』 藤田真一 岩波書店
 『郷愁の詩人と謝蕪村』 萩原朔太郎 岩波書店
 『俳人蕪村』 正岡子規 講談社
 『定本佐藤春夫全集第18巻』 臨川書店
 『わが人生の案内人』 澤地久枝 文芸春秋

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	西図書館	271-2032	ホームページ URL
中央図書館	244-3811	南図書館	294-0123	http://www.lib-sakai.jp
くすのき号	244-3811	榎分館	296-0025	携帯ホームページ URL
堺市駅前分館	222-0140	美木多分館	296-2111	http://www.lib-sakai.jp/m/
中図書館	270-8140	北図書館	258-6850	
東百舌鳥分館	234-9600	美原図書館	369-1166	
東図書館	235-1345	人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534	
初芝分館	286-0071	青少年センター図書室	228-6331	

